

編集後記

▽いつもなら教育動向を書くために三か月の新聞から教育記事を拾うのですが、今回は五か月に目を通さなければならぬ破目になりました。十紙から書き集めた原稿を捨てたり縮めたり、決められた行数を決められた日時までにまとめるしことは楽なことではありません。時間がたつぷりあれば楽しいことなのですが。

▽この期間の最大教育記事は、七月一日付各紙一面トップの小学校用新教科書でした。解説、社会面にもとりあげ、続きものを始めた新聞もありました。

▽バイク、バーマ、内申書など、人権、権利に関わりのある、記事の多かったのもひとつの特徴でした。偶然というより、人権思想の芽生えと見ないわけにはいきません。

▽目聡い読者は、取り組んだのは初めて、不服申し立ては初めて等、「初めて」の記事が多いことに気づかれたでしょう。「初めて」のことがらは落とさず載せる

ように心掛けているのですが。

▽内村鑑三の『後世への最大遺物』を岩波文庫で読んだことを思い出しました。五十年前も前のことです。座談会の記録「親が子に伝えるもの」を本号に掲載しました。さて、あなたは何を伝えたいとお考えですか。

(若月又次郎)

▽「働く女性が増えて、女性の社会性は昔と比べものにならないほど高まっているが、それと裏腹に子育てに自信のない母親が増えているのはどういうことだろうか。核家族化等で、人間を育てる技術が継承されにくくなっているのではないか」……こんなことが最近の「くらし・健康・子育て」部会の例会で話題になりました。

▽昔から「子どもは親の背を見て育つ」などと言われてきましたが、子育て技術の継承の問題も、親として子どもに何を伝えるのかという家庭での子育て・教育の方針に位置付けて考えないと、それは単なる猿真似に終わってしまいます。複雑でさまざまな問題が錯綜する今日、家

にいがたの教育情報 No.30

1992年1月10日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所
発行人 長崎 明

新潟市東中通1-86 山崎ビル2F

〒951 電話(025)228-2924

振替口座・新潟4-12332

印刷所 あかつき印刷(株)

長岡市新産4-4-7

本誌内容の無断転載を禁じます。

庭の子育てポリシーをどう打ち立てたらよいのかを本号では探ってみたいと考えました。掲載した論考に対しての感想やこの問題についてのご意見などお寄せいただければ有り難いと存じます。

▽一部原稿の遅れや不備などがあって、本号の発行が予定より著しく遅れてしまいました。深くお詫びいたします。

(片岡 弘)